

# 2021 年度 ピアサポート活動報告

## I ピアサポート制度

ピアサポート制度は、2014 年度より本学初めての試みとして開始された。本制度は、学生による学生のための支援であり、学生同士で勉強や進路などの学生生活のことについて尋ねたり相談したり出来るものである。本制度の趣旨は、学生が、学内の業務に従事し報酬を得ることで、職業意識・職業観を育むと共に、学生に対する経済的な支援を行うこともあるが、更には、将来医療人を目指す学生が、患者との信頼関係を築く上で不可欠なコミュニケーション能力やホスピタリティを養うことが期待出来、その上で、公共的精神、積極性、広い視野や世界観の涵養など人間的成長を促すことを目的とする。8 年目である本年度は、2021 年 4 月より活動を開始した。

## II 2021 年度活動内容

2021 年度のピアサポーターは医学科 6 年（男性）、医学科 5 年（女性）、歯学科 5 年（女性）、歯学科 5 年（男性）の学生が 2020 年度から引き続き担当した他、医学科 5 年（女性）、口腔保健学科 3 年（女性）、歯学科 2 年（女性）の学生が 2021 年度から新たに担当となった。

### II-1 今年度の活動方針について

2020 年 1 月から新型コロナウイルス感染症が国内で蔓延したため、東京医科歯科大学は 2020 年度の各学科の講義や実習の形態を大きく変更し、オンライン講義への移行、実習の縮小などを実施した。これにより学生の学習環境が変化し、人との交流の機会も減少したことに伴い、2020 年度はこれらの環境の変化への適応をサポートした。2021 年度も 2020 年度に準じて感染対策を行いながら、さらなる学生生活の支援を活動の主軸とした。

### II-2 相談業務

2019 年度は 5 号館地下 1 階の投書箱とメール、対面で相談受付を行っていたが、今年度は 2020 年度に引き続き、感染拡大を防ぐため対面での受付は行わなかった。その一方で、2021 年度より新たに運営を開始した Twitter を用いた相談受付を開始した。

### II-3 ピアサポーター公式 Twitter アカウントの作成

2020 年度に行われた「ぴあのわ（全国大学ピアサポーター合同研修会）」において、他大学では Twitter を用いてピアサポーターの知名度向上および業務の円滑化を行っていることが多いという話を受け、2021 年 6 月より新たにピアサポーター公式の Twitter アカウント（ID：TMDUpeer）を作成した。主な使用目的は、学生支援のための情報発信と相談受付である。情報発信については、ピアサポーターの新規募集に関するツイートをを行い、また学生団体によるイベント開催のツイートをリツイート（宣伝）した。相談受付については、Twitter の機能である「DM」という個別のチャット機能を用いた記名式の質問受付と、Twitter と連携させた「質問箱」というシステムを用いた匿名での相談受付を実施している。質問や相談が投稿された場合には、複数名のピアサポーターの同意を得てから回答するという旨のルールを作成した。

## II-4 ピアサポート通信の作成

2020年度に引き続き、学生に有益な情報を届けるため、ピアサポート通信と題したメールマガジンを不定期に学内メールで配信した。今年度は全部で5回配信し、バックナンバーをピアサポーターのwebサイトとWebClassに掲載した。

※ピアサポーターのwebサイトに掲載したピアサポート通信のバックナンバー一覧

ピアサポート通信第9号 - 新生活に役立つ豆知識 ～雑談のコツ～

ピアサポート通信第10号 - ツイッターを始めました！匿名で相談ができます

ピアサポート通信第11号 - 医学系電子書籍販売サイト比較

ピアサポート通信第12号 - 湯島キャンパスの周りを散歩してみよう

ピアサポート通信第13号 - 医師国家試験対策について

## II-5 新入生オンライン交流会参加

2020年度に引き続き、2021年度も学生・女性支援センター・国府台保健管理センター共催の新入生オンライン交流会に参加した。この交流会は6月に2回、8月に1回、10月に1回開催され、6月の交流会にはピアサポーターが参加した。交流会ではフリートークをしたり、事前に寄せられた質問にピアサポーターが答えたりした。新入生からの質問では、オススメの選択科目やアルバイトと勉学の比率に関する相談等が寄せられた。

## II-6 SECA award への参加

2022年3月に、学生団体lalaが開催する第1回SECA awardに参加した。これは医科歯科の身近な仲間の経験の共有を通じた、医科歯科生同士の交流ならび刺激の波及を主な目的とした企画であり、今回はオンラインでの開催となったが、21名15組が発表を行い、聴講者は81名であった。ピアサポーターからは歯学科5年の2名が発表者として参加し、ピアサポーターの活動内容に加えて、2020年度に実施したコロナ禍における「遠隔授業中の生活に関するアンケート」の集計・解析結果および2021年度全国大学メンタルヘルス学会での発表について情報共有を行った。

## II-7 「ぴあのわ（全国大学ピアサポーター合同研修会）」参加

三重大学が幹事校として企画・運営を行った2021年度「ぴあのわ」に、ピアサポーター3人と担当教員が参加した。今年度は2度の「プレぴあのわ」も実施され、第2回プレぴあのわに参加した。

### 第2回プレぴあのわ

**概要** 主催 三重大学

**会場** Zoom

**期日** 令和4年2月18日

#### プログラム

ワールドカフェ方式でのグループディスカッション

テーマ『もしドラえもんがピアにいたら、何を借りてどんな活動をやる？』

## ぴあのわ

**概要** 主催 三重大学

**会場** Zoom (原則オンラインで、近隣校は対面参加が可能。本学はオンラインでの参加とした。)

**期日** 令和4年3月19日 (20日は対面参加者のみ)

**プログラム (本学ピアサポーター参加のものを抜粋)**

- パネルディスカッション (伝説のピアサポーター)
- ワークショップ (各大学の特徴的な内部研修を体験)
- 交流企画「リアル脱出ゲーム」
- 活動紹介 今まで取り組んできた相談受付、メールマガジンの配信、バリアフリーマップの作成、1年生オンライン交流会への参加、学生生活に関するアンケート調査とその研究について、スライドを作成して他大学へ紹介した。

# 東京医科歯科大学ピアサポーター



目標：学生の困りごと・ストレスを軽減する

人数：6人

主な活動内容：

### 相談受付

メール、投書箱、TwitterのDMと質問箱で学生からの相談を受けつけています。コロナ前は対面でも受けつけていました。

### メールマガジンの配信

学内向けに、学生生活に役立つ情報を「ピアサポート通信」と題して不定期に配信しています。

過去の配信例：

2020年5月 第1号 本学提供の便利なソフトやサービスについて

2021年3月 第8号 医学科向けおすすめ教科書・参考書 - 臨床医学編①

### バリアフリーマップの作成

キャンパス内のバリアフリーマップを作成し、大学ホームページに公開しています。オープンキャンパスで活用しました。

### 1年生オンライン交流会への参加

学生・女性支援センターの主催する「1年生オンライン交流会」に参加し、1年生の疑問に答えました。

活動紹介(ピックアップ)：

### 学生生活に関するアンケート調査とその研究

2020年6月に全学部学生を対象に「遠隔授業中の生活に関するアンケート」を実施しました。この結果をもとに、2021年12月に全国大学メンタルヘルス学会で発表し、選考委員会特別賞を受賞いたしました！

詳しくはこちら <https://www.tmd.ac.jp/peer/>

## II-8 全国大学メンタルヘルス学会への参加

2021年12月16～17日に、東京医科歯科大学主催でオンラインにて行われた第43回全国大学メンタルヘルス学会総会に、ピアサポーター2人と担当教員が参加した。(学会総会長：学生・女性支援センター長)

まず、東京医科歯科大学の学部学生を対象として2020年度に行われたアンケート調査の結果に対する解析および考察を行った。新入生と在校生の比較により、授業形態や悩みの相談、生活スタイルに関する各々の特異的な問題点が判明した。遠隔授業は交友関係を中心とした学生のキャンパスライフにおけるメリットを喪失させる一方で、生活環境においてポジティブな影響をもたらすこともある。そこで、今後は遠隔授業の利点を生かしつつ対面授業を必要に応じて再開することに加えて、遠隔授業によるデメリットを解消するサポートのほか、問題点の発見と支援のための継続的な調査等、ピアサポーターを主体とした活動の拡充が求められる」と結論付けた。解析および考察をもとに、総会では「COVID-19に伴う遠隔授業による生活様式の変化に関するアンケート調査結果の解析－新入生(1年生)と在校生(2～6年生)の比較－」と題して口頭発表をし、選考委員会特別賞を受賞した。また、発表内容は投稿論文(原著論文)として執筆し、2022年1月に学会へ投稿した。

### Ⅲ 2021 年度の活動を振り返って

今年度は、2020 年度に引き続きコロナ禍の影響でオンラインでの講義が行われていた一方で、実習等では対面式の授業が再開しつつある状況となった。ピアサポーターは、コロナ禍での相談として Twitter を利用するという新形態の展開や、対面での新生活を想定した豆知識の発信など、学生生活に合わせた新しい活動を行った。また、アンケートを用いた学生生活の実態調査から今後の課題を分析し、学会発表および論文執筆も行った。2022 年度は新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に縮小し、対面式が増え、またウィズコロナとしての新しい生活様式に移行していくことが予想される。従って、これらの活動は今後も継続しつつ、新しい生活様式に合わせた学生生活のサポートを考え、実行していきたい。

ここ数年の課題であったピアサポーターの認知度に関しては、コロナ禍に対応した活動や SECA award への参加を通して、少しずつではあるが高めていくことができていると考える。今後も学生の実情に寄り添った活動を続けることでさらに認知度を向上させたい。